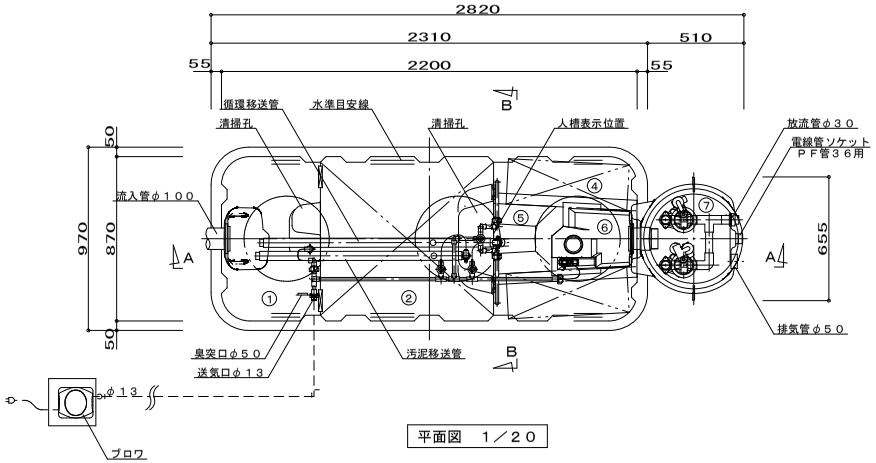
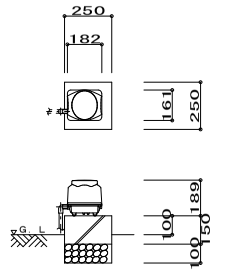


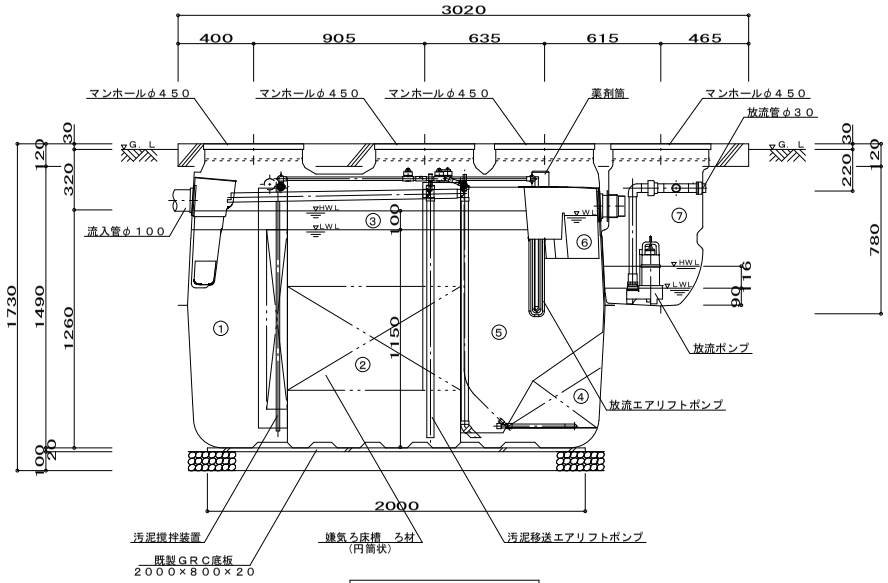
平面図　１／２０

一　般　事　項	
コンクリート	Ｆｃ＝２１Ｎ／ｍｍ２
鉄　　筋	ＳＤ２９５Ａ
定着及継手	４０ｄ
開口補強筋	Ｄ１３シングル
地　　業	砕石又はＲＣ　４０～０

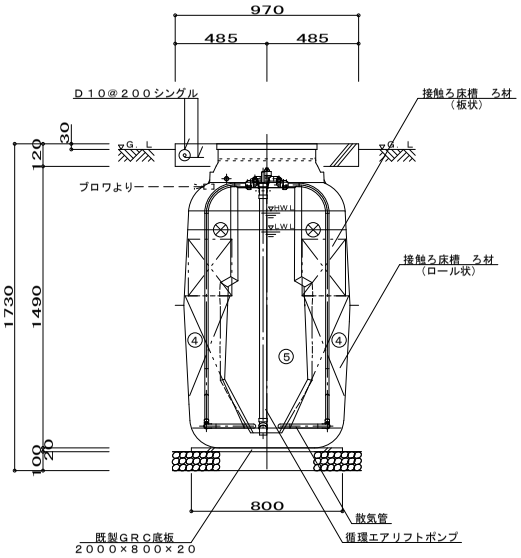


※基礎寸法は参考値とする

ブロワ　平・断面図　１／２０



Ａ－Ａ断面図　１／２０



Ｂ－Ｂ断面図　１／２０

仕　様　表					
設計番号					
型式名称	ＣＡ－７型				
処理対象人員	７人				
汚水量	１．４０ｍ３／ｄ				
流入水質	ＢＯＤ２００ｍｇ／Ｌ	ＣＯＤ１００ｍｇ／Ｌ	Ｔ－Ｎ　４５ｍｇ／Ｌ	ＳＳ　１６０ｍｇ／Ｌ	
放流水質	ＢＯＤ　２０ｍｇ／Ｌ	ＣＯＤ　３０ｍｇ／Ｌ	Ｔ－Ｎ　２０ｍｇ／Ｌ	ＳＳ　１５ｍｇ／Ｌ	
①	沈殿分離槽	有効容量	０．４４７	ｍ３	
②	嫌気ろ床槽	有効容量	０．８４２	ｍ３	
③	ピークカット部	有効容量	０．１７０	ｍ３	
④	接触ろ床槽	有効容量	０．４１５	ｍ３	
⑤	処理水槽	有効容量	０．２２８	ｍ３	
⑥	消毒槽	有効容量	０．０１５	ｍ３	
⑦	放流ポンプ槽	有効容量	０．０２９	ｍ３	
	総　容　量	有効容量	２．１１７	ｍ３	
機　器　装　置　仕　様					
嫌気ろ床槽ろ材（円筒状）	ＰＰまたはＰＥ		充填率　４３％		
接触ろ床槽ろ材（ロール状）	ＰＰまたはＰＥ		充填率　６１％		
接触ろ床槽ろ材（板状）	ＰＰまたはＰＥ		充填率　２１％		
ブロワ	９０Ｌ／ｍｉｎ	φ１３	連続運転	１台	
放流ポンプ	８０Ｌ／ｍｉｎ　１３０Ｗ	φ３０	自動交互運転	２台	
槽本体	ＦＲＰ				
パイプ類	ＰＶＣ、ＰＰまたはＰＥ				
マンホール	ＰＰまたはＦＲＰ				
消毒剤	固形塩素剤				

配管仕様	
露出配管（ブロワ廻り）	ＶＰ
土中配管	φ４０以下～ＶＰ・φ５０以上～ＶＵ
槽内配管	メーカー仕様

注１）上部は歩行者荷重とする。
注２）機器電源は単相１００Ｖとする。
注３）図中の”Ｇ．Ｌ”は浄化槽位置での仕上げレベルを示す。
注４）浄化槽からブロワまでの距離は５ｍ以内とする。
注５）流入管・放流管工事は別途とする。又接続工事は浄化槽工事範囲外とする。
注６）臭突管工事は別途とする。又接続工事は浄化槽工事範囲外とする。
注７）ブロワ付近にアース付きコンセント×３を設置のこと。設置は浄化槽工事範囲外とする。
注８）岩掘削工事、地盤改良工事は別途とする。
注９）地下水面が掘削底よりも高い場合、杭工事が必要な場合には、ＧＲＣ底板を使用しないこと。
注１０）地耐力は４０ＫＮ／ｍ２以上必要とする。（実際の工事業者が確認後施工の事）。
注１１）ＧＲＣ底板を取り扱う際には、素手で作業しないこと。
注１２）ＧＲＣ底板据付後の水平誤差は±５ｍｍ以内とすること。

放流ポンプ槽配管仕様	
排気管	ＶＵ５０
電線管	ＰＦＤ３６

注１）放流ポンプ槽の排気管は必ず接続のこと。接続工事は浄化槽工事範囲外とする。
注２）排気管の放出部は、側溝の最大水位より１００ｍｍ以上（目安）上部に設置のこと。
注３）排気管は雨水配管や放流配管、他の汚水配管と絶対に合流接続しないこと。
注４）排気管は途中で水溜りが起こるようなＶ字配管にしないこと。
注５）電線管の両端はシリコンシーラントなどで必ずコーキング処理のこと。
注６）これらの処理を怠ると、浄化槽内で発生したガスが浄化槽内、および電線管の接続先付近に設置している設備・機器の金属類を腐食し、機器破損・障害の生ずるおそれがあります。

施工高さ範囲					
ＭＨ	項　　目	嵩上げ高さ	流入管底	放流管底	施工全高
簡易ロック	最小寸法（この図面）	５０Ｈ	Ｇ．Ｌ－３２０	Ｇ．Ｌ－２２０	１７３０Ｈ
	最大寸法	３００Ｈ	Ｇ．Ｌ－５７０	Ｇ．Ｌ－４７０	１９８０Ｈ
ボルトロック	最小寸法	１００Ｈ	Ｇ．Ｌ－３９０	Ｇ．Ｌ－２９０	１８００Ｈ
	最大寸法	３００Ｈ	Ｇ．Ｌ－５９０	Ｇ．Ｌ－４９０	２０００Ｈ

注）製品全高は、製品規格で＋１０、－２０mmの公差があります。
　　流入・放流管底は、製品規格で製品全高に対し±１０mmの公差があります。

名　称	ＣＡ－７放流ポンプ付　（歩行者荷重）			
	浄化槽構造図・配筋図（ＧＲＣ板仕様）			
設計年月日	設　計	検　図	図　番	縮　尺
２０２２・０４・	戸　苅	飯　野		１／２０

フジクリーン工業株式会社